

高冷地キャベツの裏作「もち麦」の試験栽培開始

【平成 30 年 10 月 5 日掲載】

庄原市東城町の(株)vegeta（谷口浩一（たにぐちこういち）代表）では、キャベツの裏作として、「もち麦」の試験栽培に取り組むこととし、9月27日から東城町持丸の圃場（標高 850m）で播種を開始しました。

(株)vegeta のキャベツ栽培は、広島県内の島嶼部から高冷地に至る標高 0m から 850m の地帯で行われ、今年 75ha まで規模拡大する見込みです。

栽培の主体となっている標高の高い圃場では、春の雪解けが遅く、また秋の気温低下が早いため、キャベツは年 1 作しかできず、圃場利用の効率化が課題となっています。



持丸圃場での播種

そこで、冬から春の栽培が可能で、健康志向によりブームとなっている「もち麦」に着目し、農研機構中央農業研究センター北陸研究拠点と連携して「はねうまもち」を導入しました。「はねうまもち」は、高冷地向けの新品種で、西日本地域での本格的な栽培は初めてとなります。

今後、標高が高い圃場から順に、10月中旬まで播種が続きます。

当所では、栽培技術の確立支援を行うとともに、6次産業化や地域への波及など、関係機関と連携して、取組を進めていきます。



今回播種した「はねうまもち」の種子



9/21 の検討会では予定圃場を巡回

情報提供元

北部農業技術指導所